羅針盤 Compass 11

いわき市立好間中学校 3学年通信 №11　　令和3年(2021年) 4月28日(水)発行

「明日の○○科の準備は△△です」── 当たり前の日常の有り難さ。(3の1 帰りの短学活 4月26日)

私たちの学びは中学校で終わるわけではありません。多くの生徒が高校に進学し、大学を経て社会人となっても学びは続いていきます。

「現在、**高大接続改革**として、高校や大学教育の改革とともに、大学入試の改革が進んでいる」そう話す研究者は、「文部科学省はこれからの時代に必要な力を**学力の三要素**としてまとめ、高校や大学でもそれらを伸ばす教育をするとともに、大学入試でもこれらを総合的に判断して合否を決定する仕組みづくりを進めている」と説明します。

「学力の三要素」とは、①知識・技能の確実な習得　②それらをもとにした思考力、判断力、表現力　③主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度の３つ ── これは正に新しい教科書で学び始めた中学生が身につけたい資質や能力と重なります。

「中学校→高校→大学」と続く学びの中で、生徒や学生に求める力が変わりつつあります。あらかじめ正解が用意されたテスト問題に答えるだけでなく、直面する課題にいかに対応していくか、**「正解のない問い」**に立ち向かう力です。

「正解のない問い」

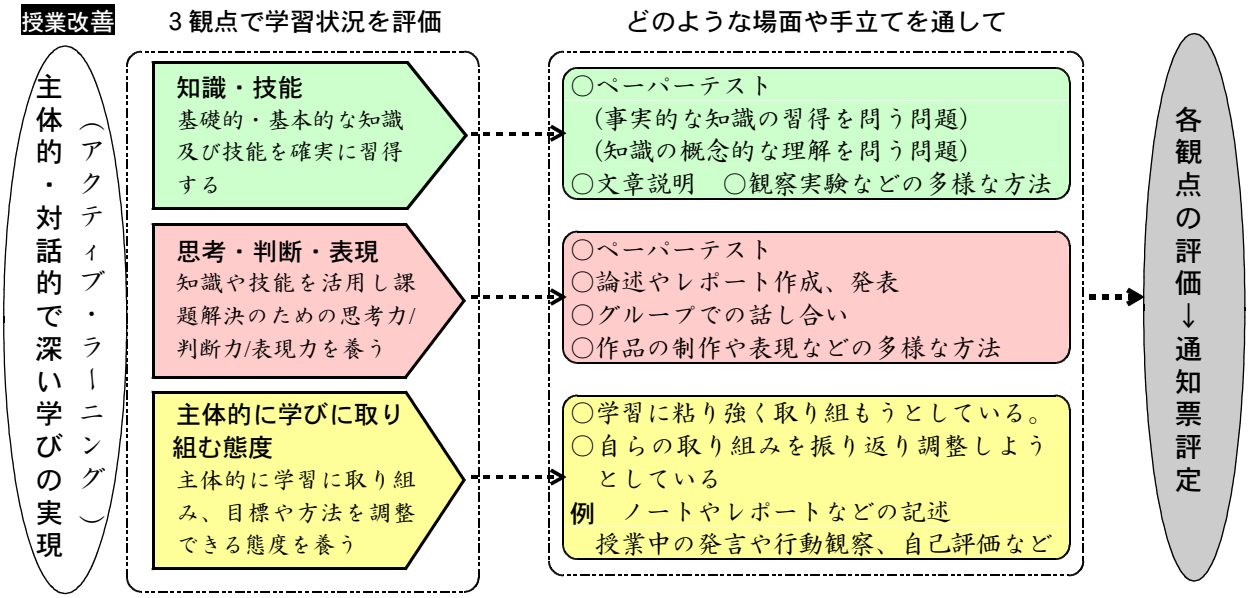
中学３年生の学び②
―評価(評定)が変わる―

教科の授業では生徒に身につけてほしい目標があり、それが達成できているかをみる観点が設けられています。それが、昨年度までの**４観点**（①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③技能 ④知識・理解)から、**３観点**（①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学びに取り組む態度）に整理されました。これまでの流れを受けながら、それぞれの教科の目標と明確に結びついた評価の観点として示されたのです。３観点の達成具合が総合され、通知票の評定となります。

３観点の最初は**「知識・技能」**です。学習の基盤をなすもので、教師は様々なテストや実技、実験や実習の様子、作品づくりなどで生徒が身につけた力を確かめます。次の**「思考・判断・表現」**は、習得した知識や技能をもとに課題等を解決する場面で、論述やレポートの作成・発表、グループの話し合いなどの多様な活動を通して確かめる力です。授業への積極的な関わりが大きく評価されることになります。テストなどで良い結果を得ることは大切なことです。しかし、受け身の授業態度だけでは、この観点のみならず将来に生かされる力を養うことは難しくなります。

３つ目の**「主体的に学びに取り組む態度」**―― これは、粘り強く課題に取り組みながらも、自らの学習状況を顧みて、方法や手立てを考え直し調整できる態度をさします。１つのことだけにただ粘り強く取り組むとか、すぐにあきらめて次のやり方に変えてしまう態度ではありません。教師は生徒がどうしてそう考えて取り組んだのかを示す記述や、発言、行動観察などで見取っていきます。

【３観点と評価する場面や手立て】



これからの授業では、積極的に発言したり話し合う姿勢が求められます。それが評価につながるとともに、個々の生徒の学力の伸びに寄与し、変化の激しいこれからの社会を生きる力にもなっていきます。教師サイドで授業の工夫も進んでいきます。真面目な３年生の力を更に伸ばすためにも、静かに聞くだけの授業からの脱却が必要です。「好中生よ。アクティブな学びを！」

【学年目標】　■自ら判断し行動し下級生の模範となる生徒　■自ら学びに取り組む生徒
■お互いの良さを認め、思いやる気持ちを持てる生徒

いわき市立好間中学校　郵便番号　970 - 1143　福島県いわき市好間町小谷作字竹ノ内1-1
電話番号 0246(36)2204　FAX 0246(36)2338